



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

第64回 日本病院学会



7月3・4日の2日間、「うどん県」こと香川県高松市で第64回日本病院学会が開催され、私と歯科口腔外科センター長の石神哲郎先生と参加してきました。

今大会は『今、医療人・病院に求められているものー明日への飛翔ー』をメインテーマとして、医師、看護師、コメディカルや事務などのさまざまな職種で構成されており、その演題数はポスター展示を含めて800演題を超えていたそうです。

病院経営や業務評価・人材育成や地域連携、他にも外科・内科・看護・感染・IT関連や救急医療・リハビリ・臨床検査など多岐にわたっており、私はそのなかの放射線治療・診断部門の一般口演で『地方郡部の病院でPET/CT装置を導入して』という演題で発表しました。2013年11月、当院にPET/CT装置が導入され大きなトラブルもなく安定した稼働が可能になり、約7ヶ月が経過しました。当院で検査が受けられるようになって良くなったとの声も聴く機会も増えました。以前は熊本市内や宮崎県・鹿児島県で行っていたPET/CT検査

が当院で受けられるようになって来院方法や時間がどのように変化したかを調査し報告しました。また、石神先生は口腔ケアのセッションで『当院における口腔ケアチーム立ち上げとその活動状況』という演題で発表されました。

今学会は、幅広い職域からの演題が多いこともあり専門性の高い質問はもちろんでしたが、他職種からの違う目線からの質問など活発な意見交換が行われているようにも感じました。（放射線関連は専門の方ばかりだったような気もしますが。）専門学会とはまた違う貴重な経験となりました。

今回発表するにあたって指導を頂いたCRCの岩崎さんをはじめ、支えて頂いた丸尾技師長や共同演者・外来スタッフの方々にはこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

今回の学びを業務に生かせるよう研鑽していきます。

画像診断センター 主任診療放射線技師 吉本 大祐

院内チーム活動報告

栄養サポートチーム

栄養サポートチーム（以下NST）は患者さんの栄養状態をアセスメントし、安全で効率的な栄養療法が行われるように支援することを目標に活動しています。病気の診断・治療は日々進歩していますが、栄養状態が低下しているといかなる治療も無効になってしまったり、治療の中断を余儀なくされます。そのため、栄養管理はすべての治療の基盤として重要視されています。基礎疾患に関係なく、入院患者

さんの3～4割が低栄養に陥っており、また高齢患者さんの増加もあり近年の臨床においてNSTは重要な役割を担っていると言えます。

当院NSTでは、医師・管理栄養士・薬剤師・看護師・理学療法士・言語聴覚士など他職種が個々の専門性を生かし、毎週火曜に外科系・木曜に内科系病棟の患者さんを対象にカンファレンスを行っています。昨年度は約500例の介入ができました。今後は、外来や在宅での介入、また地域連携も含めて活動を行っていくことが課題であり、目標でもあります。栄養に関することで何かありましたら、気軽にご相談ください。

NST専門療法士 看護師 告川 咲月

VTE チーム

「静脈血栓塞栓症を防げ！ 弾性ストッキング編」

静脈血栓塞栓症（以下VTE）は、手術や入院することで発症する危険性のある疾患です。

当院では、VTEの前段階といえる深部静脈血栓症（以下DVT）を予防する活動を行っています。今回は、予防策の一つである医療用のストッキングについてご紹介させていただきます。DVTはふくらはぎの所に発症しやすいため、ふくらはぎの静脈の流れを良くする事が重要です。そのため、足首が最も圧が強く、徐々に圧が低くなるように設計されています。

そのため、足に傷がある方や血流障害がある方など、装着できない場合もあります。方法としてはメジャーを使い、足首を計測し患者さんに応じたストッキングを選択します。着用は歩行の制限や手術を受けられる方など、主治医が必要と判断した時から開始します。通常の靴下より圧が高いため、ややはきづらい事もあります。また、皮膚が赤くなった

りすることもあるため、着用時には定期的に看護師が観察を行い異常の早期発見に努めています。このストッキングはいつまで着用した方が良いのかという質問をよく聞きます。手術後の患者さんであれば静脈血栓症は術後1または2週間以内に高いとされていますが、それ以降に発症する危険性もあります。そのため、2週間は着用をお勧めします。また、自立歩行ができるということも一つの目安になります。転倒の危険性がある時や皮膚の状態などにより中止することもあります。その際には主治医と相談し慎重に判断しています。弾性ストッキング・コンダクターは、日本静脈学会の認定を受け医師の指示のもと、ストッキングの選択や着用時の指導、着用後の不満・問題点の相談を受け適切な指導を行います。当院には現在2名のコンダクターが活動しています。ご不明な点などありましたら、お気軽にご相談ください。

弾性ストッキング・コンダクター
5階西病棟 看護師 今田 泉



「ひまわり会」開催

7月16日（水）に乳がん患者会「ひまわり会」を開催しました。

今回は、「からだに優しい食事」というテーマで当院の管理栄養士 大岩洋子室長にお話をしてもらいました。

伝統的な和食は栄養素がバランス良く、生活習慣病の予防につながるとされていること、ビタミンDの濃度が低いと免疫力が弱くなり、がんやかぜ、インフルエンザなどの感染のリスクが高くなると言われていることなど資料を用いて詳しく説明してもらいました。

また、健康に気を付けていただきたい方に開発された、ブルーサークルメニューのお弁当をひまわり亭さんに作っていただき、みんなで美味しく試食会をおこないました。カロリーを抑えるために、お弁当のおかずは、揚げる、焼く、茹でるという調理法に加え「蒸す」という調理法を取り入れられていることが印象的でした。

外食ではカロリーが高くなりがちですが、熊本県で



はこのカロリーや塩分控えめで作られたブルーサークルメニューを用意している旅館やレストランが多数あります。あらかじめ、塩分やカロリー計算をしてあるため、自分で考えて食事の量を調整する必要がなく安心して外食を楽しむことができます。

病を得て改めて大切に思うことや、ありがたさを感じることができるようになったものもあります。

今後もひまわり会では、乳がんの治療、予防、ケアというテーマだけではなく幅広く健康的で豊かな生活ができるよう、そんな「気づき」になる研修会を開催したいと思います。

医療福祉連携室 社会福祉士 岡本 理恵

地域医療 特別臨床実習を終えて

6月2日から6日にかけて、熊本大学の地域医療実習というプログラムで、人吉医療センターおよび五木村診療所の見学などをさせていただきました。今年2月にも産婦人科で実習をさせていただいたので、病院を訪れたのは2回目になります。

地域医療のプログラムでは、ほかに小国や天草、山都といった地域も選択できるのですが、人吉医療センターはその中でも圧倒的に規模の大きい病院でした。そのため、人吉球磨地域のまさに「中核」としての医療を勉強することができました。また、訪問看護にご一緒させていただいて、様々な理由で定期的に来院できない患者さんのところに伺いました。人吉医療セン

6月9～13日、私は特別臨床実習で「地域医療」を選択し、人吉医療センターに5日間お世話になりました。

院内の実習では救急外来を見学したり、外来での診察をみせていただいたりして病院の普段の様子を垣間みることができました。大学病院では見たことのなかった外来を見学することもでき、勉強になりました。また、訪問看護や五木村の診療所に看護師さんや先生と一緒にいくことができ、地域医療ならではの実習も行いました。車で長時間移動することもあったのですが、その度に病院の診療圏の広さに驚きましたし、この地域において人吉医療センターがいかに重要な存在であるかを知りました。

今回私たちを担当してくださった先生は皆熱意を持って指導していただきました。学ぶことがとても多

今回、私は地域医療実習で3つの病院を実習させていただきました。一週間ずつの実習で、最後の三週目に人吉医療センターで実習させていただきました。どこの病院での実習もとても楽しかったのですが、特に人吉医療センターはスタッフのみなさんや患者さん、みんなが笑顔で、とても活気のある病院で、非常に楽しい気持ちで実習することが出来ました。人吉医療センターで一週間の実習で特に印象に残っているのは、五木村診療所での中山先生の診療見学です。五木村の方々は、交通手段が少なく、病院まで簡単にやってくる事が出来ません。なので、たくさんの患者さんが診療所に診察しに来られました。そのたくさんの患者さんたちを少ないスタッフで診察していましたので、とても忙しい様子でした。しかし、スタッフの方々は笑顔を保ち、丁寧に患者さんに対応しておられました。そして診察をする中山先生は、必ず患者さんと体を向かい合わせ、患者さんの目をしっかりと見て話を聞き、丁寧にわかりやすい言葉を選びながら説明を行っていました。忙しい時こそ患者さんに一生懸命

ターは明るくあたたかい病院だと思っているのですが、訪問看護も非常に良い雰囲気で行われていました。患者さんは病気を抱えながらもご家族と住み慣れた環境で穏やかに過ごされている方が多いように感じました。国家試験に合格すれば来年から医師として現場で働くことになりますが、以上のようなことは忘れず地域に貢献できる医療者になりたいと思います。

公衆浴場に行けば地元の方とおしゃべりができる、そんな人吉が私は大好きです。5日間という短い期間でしたが、皆様のおかげで充実した実習となりました。ありがとうございました。



熊本大学医学部医学科 6年
山田 香

く、自分がいかに未熟であることを痛感しました。まずは試験に向けてしっかり勉強して、先生方に少しでも追いつけるように頑張りたいと思います。病院のスタッフの方々にも温かく迎えていただき、とても充実した実習になりました。

実は私は今年の2月に開催されたひとよし春風マラソンに参加させていただき、沿道からたくさんの方々に応援してもらいながら走りました。そのときと同じく、やはり人吉は景色がきれいで、優しく温かい人ばかりだと感じ、ますます人吉が好きになりました。実習先を選んで本当によかったです！ありがとうございました！



熊本大学医学部医学科 6年
岡田 健太郎

向き合うということを心がけるのだなと感じました。また、中山先生の「五木村診療所のように小さい医療施設では出来る事が限られている。そこで自分には何が出来るのか、どこまで出来るのかを自身が把握しておくことが大切である」という言葉が心に残っています。一人一人のスタッフが自分の能力を把握し、その場で出来る限りのことをしていけば、地域医療における人手不足の問題を解決する糸口になるかもしれないと思いました。人吉医療センターでは、このように大学病院では経験することができない経験をし、学ぶことができました。将来、自分も人吉医療センターの方々のように、地域を支え、患者さんの笑顔を守っていけるような医師になりたいと思います。今回の実習ではさまざまな先生方、職員の方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。



熊本大学医学部医学科 6年
木村 俊貴

当院の基幹型研修医の定員が増えます！

臨床研修医制度が必修化されて来年度で10年を迎えます。この制度は5年ごとに見直されておりますが、来年度の見直しの要点の一つに地域医療の安定確保というのがあります。これは都会の医療機関で研修する医師が多いという現状を見直し、もっと多くの研修医が地域の医療機関で研修するようにしようというものです。具体的には研修医の定員枠やプログラムの条件が見直されました。

熊本県でも熊本市以外の地方の病院の研修医の数が増えるようになります。当院でも基幹型臨床研修医の定員がこれまでの2名から4名へ増員となる予定です。現在当院の基幹型研修医の定員は2名であ

り、1年目2名、2年目2名の計4名の先生が研修できますが、今後は最多で8名の研修医を迎えることができます。2年目研修医の先生が安定的に存在すれば屋根瓦式の理想的な指導体制が可能となります。

当院は高齢化地域における中核病院であり、急性期医療や地域医療など多岐にわたる研修が経験できる環境にあります。今後の高齢化社会の医療を担う医師が、研修医時代に地域に住んでその医療に関わるということは意義あることだと思います。

臨床研修プログラム責任者 下川 恭弘

院内医療安全研修会

7月1日から4日にわたり、医療安全研修会が行われました。今回の研修は、苦情時の患者初期対応について、実際にロールプレイしながら学ぶという内容でした。

ロールプレイでは、傾聴のポイントとケーススタディを事前に把握しておく機会があったにも関わらず、いざその様な場に立たされると、思っていた以上に言葉がスムーズに出てきませんでした。しかし、これまでの様々な苦情への対応をしてきた方々の手本を拝見したり、意見を交わしたりするなかで、段々とポイントを掴めるようになりました。いかなるときも、陳謝や感謝の最後の一言を添えるという点が最も印象に残りました。



医療従事者だけに限らず、苦情時の対応というのは今後誰もが遭遇し得る機会だと思います。いざという時に、今回学んだことが自然と出せるよう、日々の行動を心掛けていきたいです。

管理栄養士 田口 ゆり

医療技術部会によるチーム医療

平成25年4月から新体制として、医療技術部は、薬剤科、画像診断センター、リハビリテーションセンター、臨床検査部、臨床工学部、医療安全管理室、栄養管理室、医療福祉連携室、治験センター、眼科、歯科の多種多様な医療スタッフから構成しています。各々の専門性を生かし、目的と情報を共有し、業務を互いに連携・補完し合い、患者さんの状況に応じた的確な医療を提供する「チーム医療」の実践と、質の高い医療を提供することを目標にスタートしました。3カ月に1回の定例会では、現状把握として、各部署の代表者により業務内容を紹介し、他部署の活動を会員が共有し、情報提供や種々の提案ができるようにすることで、部署単独ではできない事も解決し、業務改善につながっています。定例会の内容も議事録を確認できるようにしており、懇親会も開催し、親睦を深めています。

第1回医療技術部会総会では、会長の福島薬剤科長より各部署の課題や解決策、検討項目の1年間の活動報告がなされ、今後は各部署の目標実現に向けてロードマップを作成し、定例会での進捗状況を報告すること。病院機能評価受審準備として、マニュアルチェック等、現状が機能評価で求められる内容をクリアできているかを評価すること、平成27年医療マネジメント学会九州山口連合大会を当院が担当することに対して、チームとして協力していこうと訓示がありました。また、各部署より4月の院内研究発表会の内容の進捗状況が報告されました。

患者さんや地域のために、医療技術部一丸となりチーム医療による診療ケアの実践に取り組んで参ります。

医療技術部会副会長 理学療法士 塚島 靖博

くまもと夏のライトダウン+ (プラス) 2014

今年はライトダウンキャンペーンとして、6月21日（夏至）、7月7日（クールアース七夕）の2日間、病棟廊下などの可能な範囲での一斉のライトダウンを実施させて頂きました。7月7日は雨と雷の影響で停電し発電回路の50%が点灯いたしました。6月21日は無事に参加、終了することが出来ました。皆様のご協力とご理解に感謝致します。



「くま川がんサロン」へのお誘い

当病院では、人吉球磨地域のがん患者やご家族の不安・孤独感を和らげるための場所として、くま川がんサロンを開設いたしております。

がんサロンが地域がん診療連携拠点病院などの関与のもと、がん



患者・家族主体の会として全国に広まりつつあり、熊本県でも開設が進んでおります。

がんサロンは、治療経験者やがん患者、家族が気兼ねなく体験談を話したり、情報交換したりできる場所です。ひとりで悩まれている患者さんや不安を言葉に出せないでいるご家族などの精神的サポートの場所になればと思っています。

日 時：毎月第三水曜日 13:00～
(祝祭日を除く)

場 所：2F もちの樹（多目的室）

シリーズ ヨーガ Vol.3

ヨーガで“ゆるやか、和やか、心地よか”

反りの体位【コブラの体位、バッタの体位など】

反りは腰を支点とし上体を後ろに反らし体の前がわを伸ばします。すべての椎骨間の椎間板を少しずつ反らし、背筋を収縮させて、腹面全体を、ぐっと伸張させるのです。背筋、胸筋、腹筋を強くします。骨盤内の臓器を活性化するといわれています。反りの体位をしたあとは、子どものポーズ（前屈）などで反対向きに体を折り、背骨をやさしく休ませましょう。

一口メモ：インドではヨーガ実習の始まりと終わりに簡単な祈りの時間があります。祈りとは、神様、信仰のために祈るのではなく自分が教訓に持つものを守って今を過ごせるように、自分に誓いを立てるということです。

ヨーガ実習の最初と最後は、合掌というムドラー（右手から太陽、左手から月の力を、胸の前で合わせること）によって、強さと優しさのバランスを取った平安な心で静かに自分を見つめられるのです。



参考本：「しあわせヨーガ」、「ヨーガ全書」

日本ヨーガ禅道友会教師
社団法人日本ヨーガ療法学会認定ヨーガ療法士 菊池 純子

当院では毎月1回菊池先生のご指導の下、ヨーガ教室を開いています。ご興味のある方は、是非ご連絡下さい。
Tel：0966 (22) 2191 総務企画課

セルフマネジメントプログラム
ワークショップ開催のご案内

慢性疾患セルフマネジメントプログラムとは、慢性疾患を持つ方が病気とうまく付き合い、自分らしい生活を送ることができるようになるための教育プログラムです。当院では、平成26年8月22日～9月26日（全6週6回プログラム）毎週金曜13:30～16:00の時間で慢性疾患セルフマネジメントプログラムのワークショップの開催を予定しております。



場所は3階 研修室1です。当院は今回で3回目の開催となります。

このプログラムは、全国各地で開催され、平成26年5月末時点で1600名以上の方が参加されています。参加者は、がんや特定疾患の方など慢性的な病気を持っておられる方、またその家族、医療関係者で第3回ワークショップの定員は16名（先着順）となっております。

ご案内・申込書は、当院1階総合受付に置いてあります。ご興味のある方は、地域連携室まで、是非ご連絡下さい。

お問い合わせ先：0966 (22) 2191

医療福祉連携室 今井 志帆

笑って健康促進！
第102回 翔句会開催！

平成二十六年六月開催分の句をご紹介します。
どうぞ鑑賞下さい。

川柳句会「翔」平成二十六年六月份

- 柿の実が初めてついた落ちないで レイ
- 真夏なみ暑さ続いて引きこもり レイ
- 八十路の手マニキュアぬれば若がえり カツ子
- 愛猫に長生きしてね膝の上 カツ子
- サッカーに国をあげての応援團 緋紗
- 長電話はなしつきないお友達 緋紗
- 今一人このひとときが至福の時 智子
- 介護疲れ癒してくれる母の笑顔 智子
- 樹と人に無駄な年輪ないと言う 健二郎
- 人生は昨日明日なく今が旬 健二郎
- いやだなー遠い国から黄砂群 保義
- 久しぶりしゃぶしゃぶ食ってあごだれる 保義
- 古い二人薬もつれて旅に出る 圭子
- 立ちあがりやる事忘れ又座る 圭子
- ちよっとボケ妻がツツカイ棒添える 比呂志
- 一円玉で財布が太る消費税 比呂志
- 一等賞孫よあなたは誰に似た 佐津子
- 美輪様のごきげんようで気が晴れる 佐津子

次回も第四木曜日に本館二階図書室で開催致します。
ご自由にご参加下さい。投稿のみの参加もできます。
院内設置の投稿箱にご投稿下さい。

人吉医療センター 災害実動訓練

平成26年8月31日(日) 人吉市総合防災訓練と連携し、人吉医療センター 災害実動訓練を行います。
当日は地域の行政機関や医療機関をはじめ、人吉医療センター地域協力会、アマチュア無線クラブの皆様にもご協力頂きます。

当院は人吉球磨地域の災害拠点病院に指定されており、災害時の医療拠点となるべく、研鑽して参ります。
当日は騒音及び正面玄関、本館棟1階を主に使用するため、入院中及び来院の皆様にご迷惑をおかけ致しますが、ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。



昨年度訓練の様子

七夕笹飾り設置
～星に願いを～

七夕は「たなばた」または「しちせき」とも読み、古くから行われているお祭り行事で、1年間の重要な節句をあらわす五節句(人日(1/7)、上巳(3/3)、端午(5/5)、七夕(7/7)、重陽(9/9))の一つにも数えられています。毎年7月7日の夜に願い事を書いた色とりどりの短冊や飾りを笹の葉につるし、星にお祈りをする習慣が今も残ります。(京都地主神社/七夕の歴史と由来 参照)

当センターでも7月7日の七夕に向けて約1週間前より2階総合案内前に笹飾りを設置しました。ボランティアの方々などに折り紙で星や天の川などの飾りつけをしていただき、短冊には「いつまでも健康に過ごせますように」など、来院されたたくさんの方々から「願い」を込めていただきました。



7月のフレッシュマンセミナー報告

- 7/ 3 「水俣について」高橋 夢乃
- 7/10 「ランニングを継続する方法」中田 真紀
- 7/17 「枕崎について」前田 茜
- 7/24 「泌尿器科について」早坂 朋子
- 7/31 「ホタルについて」一松 香



7月17日発表

7月24日発表